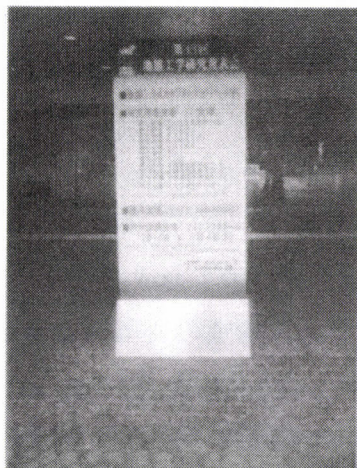


開催報告

第 43 回地盤工学研究発表会

前田工織(株) 関口 陽高



2008年7月9日～11日の3日間、広島で第43回地盤工学研究発表会が開催された。

今回、投稿された論文は1122編、展示ブース41点であった。

その内、ジオシンセティックス関連の論文は23編であった。論文発表会では、活発な意見が交わされた。補強土のセッションでは、災害時の盛土の健全度を評価するためにモニタリング機能をもったジオテキスタイル補強土壁や、豪雨による雨水が盛土に浸透して盛土が崩壊するのを防ぐために、ジオシンセティックス排水材を擁壁に使用した論文等、興味深いものがあった。また短繊維気泡混合土を用いた落石防護擁壁といった斜面防災にジオシンセティックスを用いた新しい

試みがなされていた。いずれも、災害に対してジオシンセティックスを用いた研究内容で、防災関連の話題に注目していることがわかった。

岩手宮城内陸地震をはじめとする近年頻発している地震や地球温暖化によるゲリラ豪雨など土木関係に携わる者として、注目していかなければならないニュースが目につく。地盤工学研究発表会に参加して、よりいっそう防災への意識が高まった。

ただ、今回残念に思ったのは、毎年発表会に参加される方から、今年の展示ブースはいつもより活気がないという意見が多くあったことだ。土木業界の現状を考えると、企業や協会が展示を差し控えたのだろうと思う。先に述べたように、防災への注目度は上がっており、これを機に土木分野が盛り返していけばと思う。来年の地盤工学研究発表会は、より活気の有るものになることを期待したいと思う。

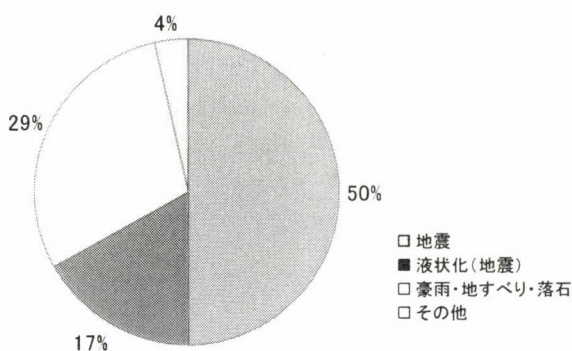


図-1 防災関連論文の分類

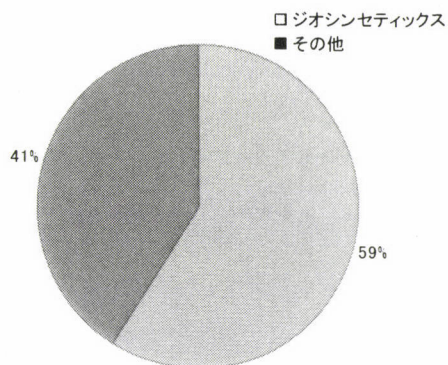


図-2 補強土関連論文